

2021年度 事業報告書

〔 自 2021年4月1日 〕
〔 至 2022年3月31日 〕

当財団は、「産業、経済、文化の発展に貢献する科学技術、芸術等を中心とする分野で著しい貢献をした者の顕彰、研究または普及啓発に対する助成等を通じてその促進を図ると共に国際相互理解の増進に努め、もって社会の啓発に貢献し、人類の平和と繁栄に寄与する。」ことを目的として1984年4月12日に設立され、1985年に第1回京都賞授賞式及び第1回研究助成金贈呈式を開催し、事業を開始した。また、2011年4月1日に公益財団法人の認定を受け、新公益法人制度に基づいた運営を開始した。2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による社会の在り方の変化を受け、従前とは異なる方法を導入し、事業を実施した。2021年度の主要事業の活動概要を、次のとおり報告する。

I. 顕彰事業

1. 第35回(2019)京都賞に関する事項

(1) 英国オックスフォード大学における「Kyoto Prize at Oxford」の開催支援

2021年5月11日(現地時間)、第35回(2019)京都賞受賞者を迎えてオンライン形式にて開催された英国オックスフォード大学主催の「第4回 Kyoto Prize at Oxford」を支援した。

2. 第36回(2021)京都賞に関する事項

(1) 受賞者の決定と発表

2021年6月18日、決議の省略の方法による定時理事会において第36回(2021)京都賞受賞者を次のとおり決定し、同日の記者会見において発表した。

① 先端技術部門受賞者

アンドリュー・チーチャー・ヤオ (Andrew Chi-Chih Yao)

職 業：コンピュータ科学者

清華大学 学際情報学研究院 院長

業 績：

「計算と通信の新たな計算理論とそれに基づく安全性の基礎理論への先駆的貢献」

計算と通信の革新的な基礎理論の構築により、情報科学における新たな潮流を作り出し、暗号や量子計算などの最先端研究にも多大な貢献を果たすとともに、セキュ

リティ、秘密計算やビッグデータ処理などの現代社会における実問題にまで影響を与え続けている。

② 基礎科学部門受賞者

ロバート・G・レーダー (Robert G. Roeder)

職 業：生化学者・分子生物学者

ロックフェラー大学

アーノルド・アンド・メイベル・ベックマン生化学・分子生物学教授

業 績：

「真核生物の遺伝子転写メカニズムの原理解明」

50年以上にわたる研究で、RNAポリメラーゼ群、基本転写因子群や特異因子の最初の例など、転写に関わる多くの因子、各々の機能、クロマチンでの転写制御を発見してきた。それらの成果を通じて真核生物における転写制御機構の原理を解明し、生命科学の発展に大きく寄与した。

③ 思想・芸術部門受賞者

ブリュノ・ラトゥール (Bruno Latour)

職 業：哲学者

パリ政治学院 名誉教授

業 績：

「科学技術と社会構造の相互作用に着目し、「近代」の根底的見直しを図る哲学の展開」

自然、人間、実験装置などを等しくアクターと見なし、科学技術をそれらのハイブリッドなネットワークの作動と記述して科学観に新風を吹き込んだ。自然と社会の二元論に基づく「近代」を見直す哲学を展開し、地球環境問題への提言を含む多面的活動は分野を超えた影響を与えてきた。

(2) 京都賞審査機関委員の公表

受賞者の発表に併せて、第36回(2021)京都賞審査機関委員を次のとおり公表した。

[京都賞委員会]

榊 裕之 (委員長) (学)トヨタ学園 フェロー

巖佐 庸 九州大学 名誉教授

梶山 千里 福岡女子大学 最高顧問

長木 誠司 東京大学 大学院総合文化研究科 教授

徳田 英幸 情報通信研究機構 理事長

成宮 周 京都大学 大学院医学研究科

メディカルイノベーションセンター センター長・特任教授

本庶 佑 京都大学 高等研究院 副院長・特別教授

村上 正紀 立命館大学 理事補佐・特別招聘教授

森 重文 京都大学 高等研究院 院長・特別教授
鷺田 清一 大阪大学 名誉教授

[審査委員会]

① 先端技術部門

徳田 英幸 (委員長) 情報通信研究機構 理事長
合原 一幸 東京大学 特別教授
今井 浩 東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授
北川 源四郎 東京大学 数理・情報教育研究センター 特任教授
久世 和資 旭化成(株) 常務執行役員・デジタル共創本部長
土井 美和子 情報通信研究機構 監事
美濃 導彦 理化学研究所 理事

② 基礎科学部門

成宮 周 (委員長) 京都大学 大学院医学研究科
メディカルイノベーションセンター センター長・特任教授
審良 静男 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授
影山 龍一郎 理化学研究所 脳神経科学研究センター センター長
近藤 滋 大阪大学 大学院生命機能研究科 教授
西田 栄介 理化学研究所 生命機能科学研究センター センター長
西村 いくこ 京都大学 名誉教授
野田 哲生 (公財)がん研究会 がん研究所 所長
山本 雅之 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 機構長

③ 思想・芸術部門

鷺田 清一 (委員長) 大阪大学 名誉教授
小林 傳司 大阪大学 名誉教授
酒井 啓子 千葉大学 大学院社会科学研究院 教授
篠原 資明 京都大学 名誉教授
鶴岡 賀雄 東京大学 名誉教授
野家 啓一 東北大学 名誉教授
広井 良典 京都大学 こころの未来研究センター 教授
山室 信一 京都大学 名誉教授

[専門委員会]

① 先端技術部門

今井 浩 (委員長) 東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授
上田 修功 理化学研究所 革新知能統合研究センター 副センター長
笠原 博徳 早稲田大学 副総長
下條 真司 大阪大学 サイバーメディアセンター センター長
徳山 豪 関西学院大学 工学部 教授

中小路 久美代 公立ほこだて未来大学 情報アーキテクチャ学科 教授
松井 充 三菱電機(株) 開発本部 役員技監
湊 真一 京都大学 大学院情報学研究科 教授

② 基礎科学部門

山本 雅之 (委員長) 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 機構長
上村 匡 京都大学 大学院生命科学研究科 教授
塩見 美喜子 東京大学 大学院理学系研究科 教授
柴田 龍弘 東京大学 医科学研究所 教授
濡木 理 東京大学 大学院理学系研究科 教授
尾藤 晴彦 東京大学 大学院医学系研究科 教授
三村 徹郎 神戸大学 名誉教授
吉村 昭彦 慶應義塾大学 医学部 教授

③ 思想・芸術部門

小林 傳司 (委員長) 大阪大学 名誉教授
伊藤 邦武 京都大学 名誉教授
重田 園江 明治大学 政治経済学部 教授
苅部 直 東京大学 大学院法学政治学研究科 教授
氣多 雅子 京都大学 名誉教授
堂目 卓生 大阪大学 大学院経済学研究科 教授
中島 隆博 東京大学 東洋文化研究所 教授
若林 幹夫 早稲田大学 教育・総合科学学術院 学術院長

(肩書は2021年6月1日現在)

3. 第36回(2021)京都賞授賞式及び関連行事の開催

(1) 京都賞授賞式及び関連行事の開催中止、特設ウェブサイトの開設

2021年11月に開催予定であった第36回(2021)京都賞授賞式及び関連行事は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し中止とした。授賞式等開催中止に伴い、受賞者及びその業績等の新たな公表の場として、第36回(2021)京都賞特設ウェブサイトを開設し、名誉総裁 高円宮妃久子殿下のお言葉並びに会長及び理事長の挨拶を掲載、受賞者それぞれの特別制作映像として「受賞者紹介映像」及び「記念講演映像」(言語は英語での日本語字幕、英語字幕の2種類)を、同ウェブサイト上でのオンライン配信等により公表した。

(2) 広報

① テレビによる報道

KBS 京都において、第36回(2021)京都賞に関する情報が報道された。

② 新聞・ウェブニュース等による報道

国内、海外の新聞社や通信社、その他ニュース配信サービス等において、第 36 回(2021) 京都賞に関する記事が多数掲載された。国内では、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日経新聞、産経新聞、京都新聞、共同通信や@PRESS を通じての各都道府県の地方紙、ウェブニュース等において記事が掲載された。国外では、清華大学、ロックフェラー大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校、オックスフォード大学等より情報が発信された。また、EurekAlert!の配信サービスを通じて、South China Morning Post 等のアジアの主要紙において、京都賞が広く紹介された。

(3) 広告等の展開

第 36 回(2021)京都賞特設ウェブサイトへの集客(誘導)や認知を目的とし、次のとおり印刷物の制作及び配布、SNS、ウェブ広告等を展開した。

① 印刷物の制作及び配布

- ・第 36 回(2021)京都賞特設ウェブサイトに関するチラシの制作及び配布

② SNS、ウェブ広告等の展開

- ・稲盛財団公式 SNS (Facebook / Twitter) 上での情報発信
- ・Facebook 上での広告出稿
- ・Google (Google Ad Grants) 上での広告出稿
- ・Science 誌による 3rd Party Email サービスの活用

(4) 米国サンディエゴにおける「京都賞シンポジウム」の開催支援及び寄附

2022 年 3 月 29 日～31 日(現地時間)、第 36 回(2021)京都賞受賞者を迎えて、リアル及びオンライン形式にて開催された「第 20 回(2022)京都賞シンポジウム」を支援した。また、2019 年に再調印した「京都賞シンポジウム覚書」に基づき、同シンポジウム主催の京都賞シンポジウム組織及び共催大学(カリフォルニア大学サンディエゴ校、ポイント・ロマ・ナザレン大学)に対して、3 回目 35 万ドルの寄附を実施した。(2019 年度から 2022 年度までの 4 年間で総額 140 万ドルを寄附予定)

4. 第 37 回(2022)京都賞に関する事項

(1) 京都賞審査機関委員の委嘱

2020 年 3 月 17 日の定時理事会において選任された第 37 回(2022)京都賞審査機関委員に対し、新型コロナウイルス感染症の影響による 1 年間の延期期間を経て、2021 年 9 月 4 日、第 37 回(2022)京都賞審査機関合同会議において正式に委嘱を行った。

(2) 推薦依頼書の発送

2021年5月、推薦依頼方針に基づいて選ばれた国内、海外の有識者に対して、郵送もしくはメールにて受賞候補者推薦の依頼を行った。

(3) 推薦の受付

2021年7月14日をもって推薦書の受付を締め切った。

(4) 京都賞審査機関による審査

授賞対象分野毎に専門委員会を各4回計12回、審査委員会を各2回計6回開催した。

5. 第38回(2023)京都賞に関する事項

(1) 授賞対象分野の決定

2021年10月15日、決議の省略の方法による臨時理事会において第38回(2023)京都賞授賞対象分野を次のとおり決定した。

- 先端技術部門 : バイオテクノロジー及びメディカルテクノロジー
Biotechnology and Medical Technology
- 基礎科学部門 : 数理科学 (純粋数学を含む)
Mathematical Sciences (including Pure Mathematics)
- 思想・芸術部門 : 美術 (絵画・彫刻・工芸・建築・写真・デザイン等)
Arts (Painting, Sculpture, Craft, Architecture, Photography, Design, etc.)

(2) 京都賞審査機関委員の決定

2021年10月15日、決議の省略の方法による臨時理事会において第38回(2023)京都賞審査機関委員を選任した。

Ⅱ. 研究助成事業

1. 稲盛研究助成

(1) 2021 年度稲盛研究助成に関する事項

① 2021 年度稲盛研究助成金の贈呈

2021 年 3 月 12 日の定時理事会において承認された 50 件に対し、総額 5,000 万円の贈呈を行った。尚、2021 年 4 月に開催予定であった 2021 年度稲盛研究助成金贈呈式及び盛和スカラーズソサエティ交流会は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し中止とした。

※ 附属明細 1「2021 年度研究助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目」を参照

(2) 2022 年度稲盛研究助成に関する事項

① 応募受付の開始

2021 年 7 月 1 日、2022 年度稲盛研究助成の申請書の受付を開始した。

② 応募の締切

2021 年 9 月 13 日をもって申請書の受付を締め切り、95 の大学及び研究機関より 411 件の応募を得た。この応募分について、各委員による予備選考を行った。

③ 稲盛研究助成選考委員会による選考

2021 年 12 月 3 日と 12 月 4 日に稲盛研究助成選考委員会を開催し、50 件 5,000 万円の助成対象者の選考を行った。

④ 稲盛研究助成対象者の決定と発表

2022 年 3 月 11 日、定時理事会において、2022 年度稲盛研究助成対象者及び助成金額を決定し、プレス発表を行った。

※ 附属明細 2「2022 年度研究助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目」を参照

⑤ 稲盛研究助成選考委員の公表

助成対象者の発表に併せて、2022 年度稲盛研究助成選考委員を次のとおり公表した。

[2022 年度稲盛研究助成選考委員]

村上 正紀（委員長） 立命館大学 理事補佐・特別招聘教授

[自然科学系]

審良 静男 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授

巖佐 庸	九州大学	名誉教授
上田 正仁	東京大学	大学院理学系研究科 教授
岡田 清孝	京都大学	名誉教授
影山 龍一郎	理化学研究所	脳神経科学研究センター センター長
片岡 一則	(公財)川崎市産業振興財団	副理事長
	東京大学	名誉教授
君塚 信夫	九州大学	大学院工学研究院 主幹教授
佐々木 節	東京大学	国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 副機構長
坪井 俊	武蔵野大学	工学部 特任教授
西田 栄介	理化学研究所	生命機能科学研究センター センター長
野田 進	京都大学	大学院工学研究科 教授
安浦 寛人	九州大学	名誉教授
柳田 素子	京都大学	大学院医学研究科 教授
山田 容子	奈良先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科 教授

[人文・社会科学系]

井野瀬 久美恵	甲南大学	文学部 教授
玄田 有史	東京大学	社会科学研究所 教授
河野 哲也	立教大学	文学部 教授
山室 信一	京都大学	名誉教授
渡辺 千原	立命館大学	法学部 教授

(肩書は2022年3月11日現在)

(3) 2023年度稲盛研究助成に関する事項

① 稲盛研究助成選考委員の決定

2022年3月11日、定時理事会において2023年度稲盛研究助成選考委員を選任した。

2. 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップ

(1) 2021年度 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップに関する事項

① 2021年度 InaRIS フェロー称号の授与

2021年3月12日の定時理事会において承認された2名に対し、InaRIS フェローの称号を授与した。尚、2021年4月に開催予定であった2021年度 InaRIS フェロー称号授与式は、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し中止とし、所属先においてそれぞれ認定証を授与した。

② InaRIS フェローに対する助成金の贈呈

2021 年度に活動する 4 名の InaRIS フェローに対し、各 1,000 万円、総額 4,000 万円の助成金贈呈を行った。(各 InaRIS フェローに対する助成金は、1 年あたり 1,000 万円、10 年間合計 1 億円とする。)

③ InaRIS 運営委員会の開催

2021 年 3 月 12 日の定時理事会において承認された 2021 年度 InaRIS 運営委員により、2021 年 10 月 3 日と 2022 年 1 月 13 日に、InaRIS 運営委員会を開催した。

[2021 年度 InaRIS 運営委員]

中西 重忠 (機構長) 京都大学 名誉教授

岡田 清孝 京都大学 名誉教授

小林 誠 高エネルギー加速器研究機構 特別名誉教授

榊 裕之 (学) トヨタ学園 フェロー

西尾 章治郎 大阪大学 総長

森 重文 京都大学 高等研究院 院長・特別教授

山中 伸弥 京都大学 iPS 細胞研究所 所長・教授

(肩書は 2022 年 3 月 11 日現在)

④ アドバイザリー・ボード・ミーティングの開催

2021 年 10 月 3 日に、2021 年度アドバイザリー・ボード・ミーティングを開催した。

(2) 2022 年度 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップに関する事項

① 応募受付の開始

2021 年 5 月 21 日、対象領域を「物質・材料」研究の前線開拓とする 2022 年度 InaRIS フェローシップの申請書の受付を開始した。

② 応募の締切

2021 年 7 月 29 日をもって申請書の受付を締め切り、31 の大学及び研究機関より 56 件の応募を得た。

③ InaRIS フェロー選考委員会による選考

2021 年 11 月 23 日と 2021 年 12 月 25 日に InaRIS 選考委員会を開催し、InaRIS フェロー候補者の選考を行った。

④ InaRIS フェローの決定

2022 年 3 月 11 日、定時理事会において 2022 年度 InaRIS フェローを決定し、3 月 18 日

にプレス発表を行った。

※ 附属明細 3 「2022 年度研究助成事業 稲盛科学研究機構 (InaRIS) フェロー」を参照

⑤ InaRIS フェロー選考委員の公表

InaRIS フェローの発表に併せて、2022 年度 InaRIS フェロー選考委員を次のとおり公表した。

[2022 年度 InaRIS フェロー選考委員]

荒川 泰彦 (委員長) 東京大学

ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 特任教授

家 泰弘 (学) 中部大学 理事・副総長

小野 輝男 京都大学 化学研究所 教授

片岡 一則 (公財) 川崎市産業振興財団 副理事長

東京大学 名誉教授

川合 眞紀 自然科学研究機構 分子科学研究所 所長

齋藤 理一郎 東北大学 大学院理学研究科 教授

十倉 好紀 理化学研究所 創発物性科学研究センター センター長

(肩書は 2022 年 3 月 11 日現在)

⑥ 運営委員の決定

2022 年 3 月 11 日、定時理事会において、2022 年度 InaRIS 運営委員を選任した。

(3) 2023 年度 稲盛科学研究機構 (InaRIS) フェローシップに関する事項

① 対象領域の決定

2022 年 1 月 13 日、運営委員会において 2023 年度 InaRIS 対象領域を「水平線の彼方の情報学」と決定した。

② 対象領域の公表

2022 年 2 月 22 日、2023 年度 InaRIS 対象領域を稲盛財団ウェブサイト上で公表した。

③ InaRIS フェロー選考委員の決定

2022 年 3 月 11 日、定時理事会において、2023 年度 InaRIS フェロー選考委員を選任した。

④ 公募説明会の実施

2022 年 3 月 25 日、29 日の 2 日間、応募要領についてウェブ会議システムによる説明会を実施した。

Ⅲ. 社会啓発事業

1. こどものキヅキ応援プロジェクトの推進

「こどもたちが不思議を見つけて、自ら深め、連鎖的に増やすことを応援する」をコンセプトとする「こどものキヅキ応援プロジェクト」を推進し、つくるまなぶ京都町屋科学館との共催による小学生向けオンラインワークショップ「キヅキひろば：こんなところにもファインセラミックス！」を、京セラ(株)の協力を得て2021年10月23日に開催した。また、日常の何気ない風景をとらえた動画を観察し、不思議に思ったことなどを動画に直接書き込み、他の人と共有することができる小学生向けウェブサイト「キヅキランド」を開発した。

2. 「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」の開催

京都賞に対する社会の期待と関心を高めるとともに、学術・芸術の振興に寄与し、併せて京都大学と当財団の協力関係を強化することを目的として、2022年2月13日、京都大学との共催による「第8回 京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」をオンライン形式にて開催した。

3. 第44回日本神経科学大会への協賛及び寄附

新発見や定説打破に挑戦し続ける研究者同士が最新の研究成果や技術を交換することで、情報発信と切磋琢磨を着実に行う場を実現するという大会趣旨に賛同し、2021年7月28日～31日の4日間、リアル（神戸コンベンションセンター）及びオンライン形式にて開催された「第44回日本神経科学大会」に協賛、297万円の寄附を実施した。

4. 京都市立芸術大学への寄附

京都市立芸術大学が2023年10月に京都駅東部への全面移転するにあたり、音楽学部と美術学部で必要となる教育・研究設備や什器備品を整備するため設立した同大学整備基金に対し、若手芸術家の育成及び支援、並びに地域社会に開かれたキャンパスの実現を目的として、2,000万円の寄附を実施した。

5. ウクライナ及び周辺国における緊急人道支援

ウクライナ及び周辺国において国難に直面するウクライナの人々に対する緊急人道支援として、避難民の保護や救援活動に貢献することを目的に、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の日本公式支援窓口である特定非営利活動法人国連 UNHCR 協会に対し2億円、国際連合児童基金（UNICEF）の日本国内委員会である公益財団法人日本ユニセフ協会に対し2億円、計4億円の寄附を実施した。

6. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動支援

当財団の寄附（総額 1,100 万ドル）により設立された米国オハイオ州のケースウェスタンリザーブ大学「倫理と叡智のための稲盛国際センター」が 2021 年 9 月 23 日（現地時間）に開催した「2020 年稲盛倫理賞」授賞式及び関連行事への開催協力をはじめ、同センターの活動を支援した。

IV. その他の活動

1. 会議の開催状況

理事会、評議員会を次のとおり開催し、全ての議案が原案のとおり承認可決された。

(1) 理事会

臨時理事会（決議の省略の方法による）

日 時 2021 年 5 月 25 日

議 案 ・ 2020 年度事業報告及び決算報告の件
・ 定時評議員会開催の件(2021 年 6 月)

定時理事会（決議の省略の方法による）

日 時 2021 年 6 月 18 日

議 案 ・ 第 36 回(2021)京都賞受賞者承認の件
・ 役付役員選任の件
・ 京セラ(株)第 67 期定時株主総会議決権行使の件
報告事項 ・ 代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告
・ 第 36 回(2021)京都賞行事の件
・ 米国サンディエゴでの第 19 回(2021)京都賞シンポジウム開催の件
・ 英国オックスフォード大学での第 4 回 Kyoto Prize at Oxford 開催の件
・ 主要日程の件

臨時理事会（決議の省略の方法による）

日 時 2021 年 10 月 15 日

議 案 ・ 第 38 回(2023)京都賞授賞対象分野の件
・ 第 38 回(2023)京都賞審査に係る委員選任の件
・ 文化芸術振興プログラム(音楽)実施の件
・ 京セラ(株)に対する「和輪庵」持分返却(無償譲渡)の件
・ 公共施設等に対する財団保有美術品寄贈(無償譲渡)の件
・ 臨時評議員会開催の件
報告事項 ・ 主要日程の件

定時理事会

日 時 2022年3月11日

- 議 案
- ・第38回(2023)京都賞審査に係る委員選任の件
 - ・2022年度 InaRIS フェロー並びに助成金額承認の件
 - ・2022年度 InaRIS 運営に係る委員選任の件
 - ・2023年度 InaRIS フェロー選考に係る委員選任の件
 - ・2022年度稲盛研究助成対象者並びに助成金額承認の件
 - ・2023年度稲盛研究助成選考に係る委員選任の件
 - ・京都大学への寄附の件
 - ・2022年度事業計画及び収支予算の件
- 報告事項
- ・代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告
 - ・京都賞関連行事見直しの件
 - ・第36回(2021)京都賞特設ウェブサイトの件
 - ・第37回(2022)京都賞推薦状況報告の件
 - ・主要日程の件

(2) 評議員会

定時評議員会 (決議の省略の方法による)

日 時 2021年6月18日

- 議 案
- ・2020年度事業報告及び決算報告の件
 - ・理事・監事選任の件
- 報告事項
- ・代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告
 - ・第36回(2021)京都賞受賞候補者の件
 - ・第36回(2021)京都賞行事の件
 - ・米国サンディエゴでの第19回(2021)京都賞シンポジウム開催の件
 - ・英国オックスフォード大学での第4回 Kyoto Prize at Oxford 開催の件
 - ・主要日程の件

臨時評議員会 (決議の省略の方法による)

日 時 2021年11月2日

- 議 案
- ・京セラ(株)に対する「和輪庵」持分返却(無償譲渡)の件
 - ・公共施設等に対する財団保有美術品寄贈(無償譲渡)の件
- 報告事項
- ・文化芸術振興プログラム(音楽)実施の件
 - ・主要日程の件

2. 委員会等の開催状況

(1) 京都賞顕彰事業の各委員会

開催日	名称	議題
2021. 9. 4	京都賞審査機関合同会議	審査基本方針決定
2021. 11. 20	京都賞先端技術部門 第1回専門委員会	候補者審査
2021. 11. 21	京都賞基礎科学部門 第1回専門委員会	候補者審査
2021. 11. 27	京都賞思想・芸術部門 第1回専門委員会	候補者審査
2021. 12. 11	京都賞先端技術部門 第2回専門委員会	候補者審査
2021. 12. 12	京都賞基礎科学部門 第2回専門委員会	候補者審査
2021. 12. 18	京都賞思想・芸術部門 第2回専門委員会	候補者審査
2022. 1. 8	京都賞先端技術部門 第3回専門委員会	候補者審査
2022. 1. 9	京都賞基礎科学部門 第3回専門委員会	候補者審査
2022. 1. 10	京都賞思想・芸術部門 第3回専門委員会	候補者審査
2022. 1. 29	京都賞先端技術部門 第4回専門委員会	候補者審査
2022. 1. 30	京都賞基礎科学部門 第4回専門委員会	候補者審査
2022. 2. 5	京都賞思想・芸術部門 第4回専門委員会	候補者審査
2022. 2. 19	京都賞先端技術部門 第1回審査委員会	候補者審査
2022. 2. 20	京都賞基礎科学部門 第1回審査委員会	候補者審査
2022. 2. 23	京都賞思想・芸術部門 第1回審査委員会	候補者審査
2022. 3. 12	京都賞先端技術部門 第2回審査委員会	候補者審査
2022. 3. 13	京都賞基礎科学部門 第2回審査委員会	候補者審査
2022. 3. 19	京都賞思想・芸術部門 第2回審査委員会	候補者審査

(2) 研究助成事業の各委員会

開催日	名称	議題
2021. 10. 3	2021 年度 InaRIS 運営委員会	運営に関する事項
2021. 10. 3	2021 年度アドバイザー・ボード・ミーティング	InaRIS 研究報告
2021. 11. 23	2022 年度 InaRIS フェロー 第1回選考委員会	フェロー選考
2021. 12. 3	稲盛研究助成選考委員会 人文・社会科学系分科会	助成対象者選考
2021. 12. 4	稲盛研究助成選考委員会 自然科学系分科会	助成対象者選考
2021. 12. 25	2022 年度 InaRIS フェロー 第2回選考委員会	フェロー選考
2022. 1. 13	2021 年度 InaRIS 運営委員会	運営に関する事項

3. 広報活動

(1) 記者発表の実施

実施日	内容	実施場所／配布
2021. 6. 18	第36回(2021)京都賞受賞者発表 記者会見	ホテル日航プリンセス京都
2021. 11. 10	第36回(2021)京都賞記念講演動画オンライン配信のお知らせ(資料配布)	関係記者クラブ
2022. 3. 11	2022年度稲盛研究助成50名採択(資料配布)	関係記者クラブ
2022. 3. 18	2022年度稲盛科学研究機構(InaRIS)フェロー決定(資料配布)	関係記者クラブ

(2) 刊行物の発行

発行月	内容	発行部数
2021. 6	稲盛財団 NEWS 102号	3,000部
2021. 11	稲盛財団 NEWS 103号	3,000部

(3) 電子媒体による情報発信

以下の電子媒体によって、京都賞や稲盛財団の活動に関連する情報を発信した。

- ・稲盛財団ホームページ(日・英)
- ・京都賞紹介サイト(日・英)
- ・Facebook 「京都賞-Kyoto Prize」(日・英)
配信：計74回(日：40回/英：34回)
- ・Twitter 「Kyoto Prize」「Inamori News」(日・英)
- ・メールマガジン 「稲盛財団 Magazine」(日)
配信：計5回(2021年4月、7月、10月、11月、12月)
「Inamori Foundation e-Newsletter」(英)
配信：計5回(2021年4月、7月、10月、11月、12月)
「3S Magazine(3S会員専用)」
配信：計5回(2021年6月、8月、10月 2022年1月、3月)

(4) 京都市京セラ美術館及び鹿児島大学稲盛記念館「京都賞展示コーナー」による情報発信

受賞者の考えや生き方にふれることを目的に、京都市京セラ美術館の東広間に設置した「京都賞展示コーナー」の展示コンテンツを更新した。また、鹿児島大学稲盛記念館に設置された同コーナーの展示コンテンツ更新に協力した。

V. その他

1. 京セラ(株)に対する「和輪庵」持分返却（無償譲渡）

1993年と2001年に京セラ(株)より寄贈を受けた京都市左京区鹿ヶ谷のゲストハウス「和輪庵」の土地及び建物等の共有持分2分の1について、主な使用目的であった賓客対応の機会減少を考慮し、2021年12月31日付にて、京セラ(株)に対し当財団の持分返却（無償譲渡）を行った。（固定資産除却額：730,011,284円）

2. 鹿児島市に対する財団保有美術品寄贈（無償譲渡）

当財団が保有する彫金家 故 帖佐美行氏（1915年3月25日-2002年9月10日、文化勲章受章者）の作品20点について、より公益に資するための作品公開機会の増加、適切な保管環境の整備を目的として、2022年2月18日付にて、故人の出身地である鹿児島市に対し寄贈（無償譲渡）を行った。（固定資産除却額：105,653,250円）

2021年度研究助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目

	対象者	研究題目
自然科学系	アタラシ コウジ 新 幸二 慶應義塾大学 医学部 准教授	腸内細菌操作による健康長寿社会への貢献
	イトウ アヤカ 伊藤 綾香 名古屋大学 環境医学研究所 助教	免疫細胞内脂質に着目した全身エリテマトーデスの病態解明
	イトウ ミナコ 伊藤 美菜子 九州大学 生体防御医学研究所 准教授	脳梗塞慢性期における血液由来因子による炎症制御機構の解明と治療応用
	イマムラ テルヒコ 今村 輝彦 富山大学 附属病院 講師	収縮機能低下心不全に対する超音波ドップラー検査を用いた心拍数の最適化の臨床的な意義の検証
	イワサキ ユウサク 岩崎 有作 京都府立大学 大学院生命環境科学研究科 教授	腸ホルモンGLP-1のインスリン感受性亢進作用における自律神経と中枢神経の関与
	ウチダ マサキ 打田 正輝 東京工業大学 理学院 准教授	高いスピン密度を実現する新規磁性半導体材料の創出
	エンドウ ミズキ 遠藤 瑞己 東京大学 大学院理学系研究科 助教	生体深部で細胞間シグナル伝達を制御する熱遺伝学的システムの開発
	オイスaki コウノスケ 生長 幸之助 東京大学 大学院薬学系研究科 講師	主鎖無保護アミノ酸を用いる連続的ペプチド伸長法
	オオツカ トモヒロ 大塚 朋廣 東北大学 電気通信研究所 准教授	半導体量子デバイスの高精度高周波測定技術の研究
	オカモト トモコ 岡本 朋子 岐阜大学 応用生物科学部 助教	雌雄異株の進化は花の匂いの多様化を引き起こしたか？
	カミヤ ユキコ 神谷 由紀子 名古屋大学 大学院工学研究科 准教授	非環状型人工核酸が形成するユニークな三重鎖構造に基づくRNA機能制御法の開発
	クメ カズノリ 久米 一規 広島大学 大学院統合生命科学研究科 准教授	核と小胞体間の膜輸送に方向性を生むメカニズムの解明
	コウノ ミチヒト 河野 通仁 北海道大学 北海道大学病院 特任助教	T細胞サブセットのバランスに注目した細胞内代謝を標的とした全身性エリテマトーデスの新規治療開発
	コクショウ タクマ 國生 拓摩 名古屋大学 大学院理学研究科 助教	生命誕生の理解へ向けた超新星爆発によるリン生成メカニズムの観測的研究

	対象者	研究題目
自然科学系	コバヤシ マコト 小林 真 北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授	冬の気候変動とシカの増加が北方林における倒木更新のメリットを消失させる
	コバヤシ ユウスケ 小林 優介 茨城大学 大学院理工学研究科 助教	母性遺伝の分子メカニズムに迫る
	コンドウ クニオ 近藤 邦生 自然科学研究機構 生理学研究所 助教	エネルギー代謝を担う中枢神経系と末梢組織をつなぐ神経回路の解明
	サイトウ クニヤス 齊藤 国靖 京都産業大学 理学部 准教授	多分散粒子系の階層構造に起因する特異な粘弾性と弾塑性および新しい数理物理学の展開
	サイトウ マサヒコ 斎藤 慎彦 広島大学 大学院先進理工系科学研究科 助教	高効率有機薄膜太陽電池を指向した新規高結晶性n型材料の開発
	サコ カオリ 佐古 香織 近畿大学 農学部 助教	高等植物における昆虫ホルモン受容体の探索
	サワダ トシキ 澤田 敏樹 東京工業大学 物質理工学院 助教	繊維状ウイルスからなる液晶性分離膜の構築と高感度バイオマーカー検出への展開
	スエキ シュンスケ 末木 俊輔 武蔵野大学 薬学部 助教	ヘテロ2核金属錯体触媒による新規シアノ化反応の開発
	タカオカ カツヨシ 高岡 勝吉 徳島大学 先端酵素学研究所 准教授	マウス胚における発生休止メカニズム
	タキモト ダイスケ 滝本 大裕 琉球大学 理学部 助教	単原子層白金ナノシートの創製と基礎物性の理解
	タナカ タカシ 田中 貴 岐阜大学 応用生物科学部 助教	深層学習と空間統計モデルによる畑作物の苗立ち不安定性評価手法の開発
	ノモト ヒロシ 野本 博司 北海道大学 北海道大学病院 助教	細胞内エネルギー代謝の観点から探るヒト頸動脈プラーク内マクロファージの極性変化の役割
フナミズ アキヒロ 船水 章大 東京大学 定量生命科学研究所 講師	経験に基づく行動最適化の神経基盤	

	対象者	研究題目
自然科学系	ホンダ ユウキ 本田 裕樹 奈良女子大学 研究院自然科学系 助教	非生物的な光増感反応と酵素反応を組み合わせた光エネルギー駆動型の水素生産系
	マエダ チヒロ 前田 千尋 岡山大学 大学院自然科学研究科 助教	アザヘリセンを基盤とした円偏光発光材料の開発
	マサイ ヒロシ 正井 宏 東京大学 大学院総合文化研究科 助教	円偏光によって誘起される不斉クロスカップリング反応技術の創成
	マスダ タカヒロ 増田 隆博 九州大学 大学院薬学研究院 助教	脳境界マクロファージの包括的解析から見る正常脳形成と中枢性疾患発症
	マツオ カズヤ 松尾 和哉 北海道大学 電子科学研究所 助教	光細胞工学法の開拓
	ママダ マサシ 儘田 正史 九州大学 大学院工学研究院 助教	未踏有機レーザー色素骨格の網羅的探索と有機半導体レーザーの高性能化
	ミウラ サトシ 三浦 智 東京工業大学 工学院 講師	人の身体性を考慮したインタフェースの制御手法の構築
	ミナト ナミ 湊 菜未 新潟大学 自然科学系 助教	昆虫によって媒介される越境性ウイルス病害の防御応答に関する統合的理解
	モリモト マサヒロ 森本 勝大 富山大学 学術研究部工学系 助教	金属/有機半導体界面における分極制御と電荷移動メカニズムの解明
	モロイシ トシロウ 諸石 寿朗 熊本大学 大学院生命科学研究部 教授	鉄による細胞分化制御機構の解明
	ヤマグチ シンタロウ 山口 慎太郎 慶應義塾大学 医学部 助教	血管・腸管NAD ⁺ 合成系を標的とした内因性インクレチン分泌促進法の開発
	ヤマムロ カズヒコ 山室 和彦 奈良県立医科大学 医学部 助教	前頭葉—視床室傍核回路が形作る恐怖記憶の神経基盤の同定
	ワタナベ ケンイチ 渡邊 謙一 帯広畜産大学 グローバルアグロメディシン研究センター 助教	牛の新規神経変性疾患である褐毛和種牛封入体病の原因遺伝子の同定
		小計 40件

	対象者	研究題目
人文・社会科学系	イイツカ アキコ 飯塚 明子 宇都宮大学 留学生・国際交流センター 助教	持続可能な復興を導く災害ボランティアに関する国際比較
	イデ カズキ 井出 和希 大阪大学 感染症総合教育研究拠点 特任准教授	学術誌の倫理性・公正性の探索：大規模データベースを活用した分析
	カネハラ アキコ 金原 明子 東京大学 医学部附属病院 特任助教	ピアサポートワーカーの育成・普及に関するガイドラインの作成
	コジマ マサエ 小嶋 理江 名古屋大学 未来社会創造機構 特任助教	自らの運転行動を他車視点で経験することによる教育効果 —適切なメタ認知の向上を目指して—
	サキタ ヨシヒロ 崎田 嘉寛 北海道大学 大学院教育学研究院 准教授	映像資料を用いた走・跳動作の分析からみる日本スポーツ史の再考
	タカハシ ケイタ 高橋 啓太 花園大学 文学部 准教授	引揚げ者の文学における満洲表象の研究：五味川純平を中心に
	タカヤナギ セイヤ 高柳 誠也 東京理科大学 理工学部 助教	水害多発地域における人口動態および土地利用変化に関する研究
	ヒラミ ケンタ 平見 健太 早稲田大学 社会科学総合学術院 講師	経済の安全保障化と国際経済法の動揺—国家と市場の関係を再考する—
	フジモト アカリ 藤本 灯 京都府立大学 文学部 准教授	日本初の国語辞書『色葉字類抄』に採録された漢籍出典語彙の院政期における使用状況
	モトオカ タクヤ 本岡 拓哉 同志社大学 人文科学研究所 助教	都市開発と立ち退き問題の諸相—戦後京都を対象に—
		小計 10件
		合計 50件

※所属・役職は2021年4月10日時点

※助成金額は、1件につき100万円

2022年度研究助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目

	対象者	研究題目
自然科学系	アサノ ケイスケ 浅野 圭佑 京都大学 大学院工学研究科 助教	炭素-炭素二重結合の触媒機能開拓に基づく時空間選択的反応プローブの開発
	アンザイ アツシ 安西 淳 慶應義塾大学 医学部 助教	臓器間炎症ネットワークから捉えた動脈硬化進展の新規分子機序の解明
	イトウ タイチ 伊藤 太一 九州大学 基幹教育院 助教	ヒドラにおける睡眠量の雌雄差とオルニチン作用機序の関係性の解明
	ウエダ マサヒコ 上田 仁彦 山口大学 大学院創成科学研究科 講師	繰り返しゲームにおける利得制御の数理構造の解明
	オガワ アキコ 小川 亜希子 東北大学 加齢医学研究所 助教	新規RNA修飾代謝酵素による免疫応答制御の解明
	オグリ ヤスオ 小栗 靖生 京都大学 大学院農学研究科 助教	ベージュ脂肪細胞の増殖に関わる調節因子の多面的解析
	オノ ダイスケ 小野 大輔 名古屋大学 環境医学研究所 講師	時計遺伝子によらない新・概日時計メカニズムの解明
	カシヨウ カズトシ 加生 和寿 九州大学 大学院薬学研究院 助教	ミトコンドリアゲノムの数と遺伝情報を正確に維持するための制御因子探索と分子機構解析
	カシワギ ミツアキ 柏木 光昭 筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 助教	興奮性神経による睡眠の新規神経回路メカニズムの解明
	カワベ タケシ 河部 剛史 東北大学 大学院医学系研究科 准教授	T細胞の自然免疫機能に着目した新たな感染症治療戦略の創出
	キマタ ユウスケ 木全 祐資 東北大学 大学院生命科学研究所 助教	コケ植物ゼニゴケを用いて植物の体軸形成機構の進化にせまる
	コダマ マサフミ 小玉 将史 鹿児島大学 水産学部 助教	流れ藻生態系の形成過程とそのメカニズムの解明
	ゴトウ アキヒロ 後藤 明弘 京都大学 大学院医学研究科 助教	オフラインシナプス可塑的变化の記憶固定における必要性
コワダ トシユキ 小和田 俊行 東北大学 多元物質科学研究所 助教	細胞小器官同士の膜接触領域の形成と解離を光制御する化学ツールの開発	

	対象者	研究題目
自然科学系	コンドウ アズサ 近藤 梓 東北大学 大学院理学研究科 准教授	強塩基性キラルブレンステッド塩基触媒を用いた非連続不斉炭素中心を有する光学活性化化合物の合成法の確立
	シオミ コズエ 塩見 こずえ 東北大学 学際科学フロンティア研究所 助教	鳥類の飛行モード進化に関わる遺伝的メカニズムの解明
	ジツキ ススム 實木 亨 三重大学 大学院医学系研究科 准教授	シナプス可塑性による脳機能地図の再構成のメカニズム
	シノダ カズマ 篠田 一馬 宇都宮大学 工学部 准教授	遠隔迅速病理診断のための分光偏光同時撮影と多目的デジタル染色法の開発
	シマダ タカシ 島田 貴士 千葉大学 大学院園芸学研究院 助教	油滴を介した植物のストレス応答機構の解明
	スワ ヒデマロ 諏訪 秀麿 東京大学 大学院理学系研究科 助教	電荷・スピン・軌道自由度が絡む有限温度量子ダイナミクス計算法の開発
	タケダ タカシ 武田 貴志 東北大学 多元物質科学研究所 助教	動的な水素結合有機フレームワークの創製と外部刺激応答材料への展開
	タナカ ヒロヨシ 田中 啓祥 岡山大学 学術研究院医歯薬学域 助教	膵がんにおける線維化障壁を克服するナノメディシン戦略の開発
	タナカ マサキ 田中 正樹 東京農工大学 大学院工学研究院 助教	高秩序な双極子配向を誘起する分子ダイナミクスの探索
	タナカ ユウヤ 田中 裕也 東京工業大学 科学技術創成研究院 助教	ラジカルの非局在化による安定化を鍵とする有機金属単分子スイッチの開発
	ツチオカ シュンスケ 土岡 俊介 東京工業大学 情報理工学院 講師	アフィン・リー環の表現論を用いたロジャーズ・ラマヌジャン型恒等式の導出
	テシマ ヒデアキ 手嶋 秀彰 九州大学 大学院工学研究院 助教	加熱液中原子間力顕微鏡の開発と沸騰開始の素過程の解明
	トガシ ヨウスケ 富樫 庸介 岡山大学 学術研究院医歯薬学域 教授	腫瘍微小環境のミトコンドリア異常の抗腫瘍免疫応答への影響の解明
	ナガオカ ソウ 長岡 創 奈良県立医科大学 医学部 助教	マウス卵子の機能形成及び生存を保証する転写制御機構の解明

	対象者	研究題目
自然科学系	ハヤシ ゴウスケ 林 剛介 名古屋大学 大学院工学研究科 准教授	分解耐性を持つタンパク質の設計と化学合成
	ハヤシ ショウタロウ 林 正太郎 高知工科大学 環境理工学群 講師	ドミノ型単結晶—単結晶相転移の実現による分子結晶相転移の観察
	ヒビヤ ユキ 日比谷 由紀 東京大学 大学院総合文化研究科 助教	太陽系誕生環境の謎への挑戦: 希ガス同位体を用いた原始太陽系円盤の温度構造と近傍星の解明
	ヒロタ マサカズ 広田 雅和 帝京大学 医療技術学部 講師	デジタル時代の視機能管理: 眼疲労を簡便に定量評価できるデバイス開発と適切なスマートフォン視距離の探索
	マエダ ミハル 前田 深春 秋田大学 大学院医学系研究科 助教	細胞分裂期に分泌が停止するメカニズム
	マツヒサ ナオジ 松久 直司 慶應義塾大学 理工学部 専任講師	高速駆動伸縮性皮膚一体型ディスプレイ
	マツモト トモノリ 松本 知訓 大阪大学 微生物病研究所 助教	倍数性変化に基づく 癌薬剤耐性化機構の解明とその抑止戦略の開発
	モリシタ ヒデアキ 森下 英晃 順天堂大学 大学院医学研究科 講師	生体の恒常性と変容を支える新規細胞内分解機構の同定
	モリタ リツコ 森田 梨津子 理化学研究所 生命機能科学研究センター 上級研究員	毛包幹細胞の自己複製能獲得メカニズムの解明
	ヤマダ キヒロ 山田 貴大 東京工業大学 理学院 助教	X線誘起磁化反転現象の開拓
	ヤマダ シュンスケ 山田 駿介 東北大学 大学院工学研究科 助教	生分解性金属のナノポーラス化技術の確立とその蓄電素子への応用
	ヨシダ スグル 吉田 優 東京理科大学 先進工学部 准教授	新規複素環構築のための逐次アライン反応
		小計 40件

	対象者	研究題目
人文・社会科学系	ウ ユジン 禹 裕眞 一橋大学 大学院法学研究科 講師	難民への権利保障の2つの道：受入国政府と国際機関はいつ難民保護を進めるか？
	カワムラ ユウスケ 河村 有介 神戸大学 大学院国際協力研究科 助教	中国対外援助の中東・北アフリカ地域の社会保障に対する影響の分析：エジプトを事例として
	ササキ メグミ 佐々木 恵 北陸先端科学技術大学院大学 保健管理センター 准教授	大学生の先延ばし行動と精神健康の関係ー日本人学生と留学生の共通点・相違点に着目した心理学的研究ー
	サトウ ショウヘイ 佐藤 尚平 早稲田大学 文学学術院 准教授	日英両帝国による植民地文書の破棄と隠匿についての比較研究
	タカハシ ジュンイチ 高橋 純一 福島大学 人間発達文化学類 准教授	「心の目」の多様性：アフエンタジアの出現率推定とサブタイプの提唱
	トミナガ キョウコ 富永 京子 立命館大学 産業社会学部 准教授	社会的権利要求に対する揶揄・冷笑・攻撃——雑誌記事コーパス分析と回顧的語りの検討から
	ナカヤマ リョウヘイ 中山 遼平 東京大学 大学院人文社会系研究科 助教	日本語読文能力を支える視覚運動処理に関する心理物理学的検討
	ハナイ カズヨ 華井 和代 東京大学 未来ビジョン研究センター 講師	コンゴの紛争資源問題からとらえるビジネスと人権
	フクイ マサノリ 福井 昌則 徳島大学 高等教育研究センター 准教授	学校教育で創造性を高める方法に関する検討：問題変形と問題の構造理解に着目した実証的研究
	ワシヤ ヨウスケ 鷺谷 洋輔 東北大学 大学院教育学研究科 准教授	「動点観測」の可能性ー見習いマタギのエスノグラフィー
		小計 10件
		合計 50件

※所属・役職は、2022年3月10日現在

※助成金額は、1件につき100万円

2022 年度研究助成事業 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェロー

採択年度	InaRIS フェロー	研究テーマ
2020	京都大学 基礎物理学研究所 教授 高柳 匡	量子エンタングルメントから創発する量子重力理論
2020	東京大学 大学院総合文化研究科 准教授 野口 篤史	誤り耐性量子計算のための超高精度量子制御
2021	東京大学 先端科学技術研究センター 教授 西増 弘志	新規 RNA 依存性酵素の探求
2021	北海道大学 低温科学研究所 教授 山口 良文	哺乳類の冬眠能を構成する因子同定とその機能検証
2022	東北大学 電気通信研究所 教授 深見 俊輔	人工制御による物質・材料の「知能」の発現とコンピューティングへの展開
2022	京都大学 高等研究院 准教授 藤田 大士	生物情報起源材料用のマトリックス合成と新機能の創出
以上 6 名		

※所属・役職は、2022 年 3 月 1 日現在

※助成金額は、フェローにつき 1 億円（1,000 万円を 10 年間にわたり助成）